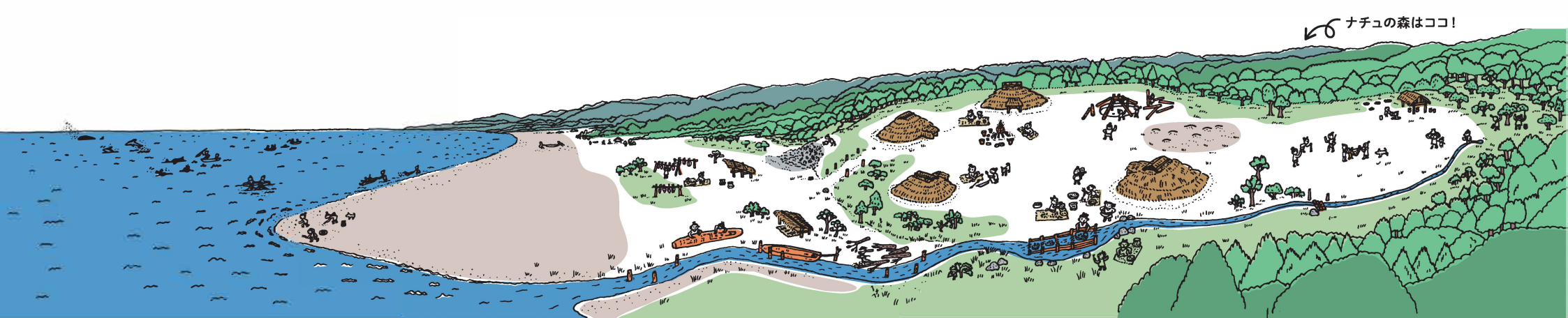
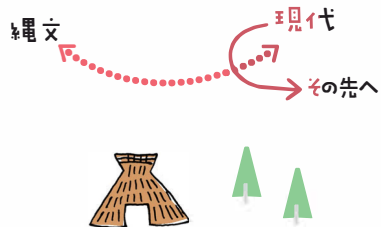




縄文 × ナチュの森

水と森、豊かな自然、空気… 15000年の時を超えてつながる。 縄文から受け取るメッセージとは？

ナチュの森は縄文の
ムラに似ているかも??



約1万5000年もの長い時をつないできた縄文。豊かな自然、食物、水にあふれたところを選んで、仲間と助け合って暮らす能力にたけていたらしいです。「ナチュの森」も北海道白老町の自然や湧水が豊かな場所。きっと縄文人が好んでムラをつくっていたに違いない。そんな親近感がきっかけとなり、展示会を開くことになりました。土器や土偶だけじゃない縄文時代を知る欠片を、少しでも発見（ハックツ!）してほしい。新しい興味関心とか、おどろきや空想とか。?や!やQがたくさん湧き出すきっかけの展示を通じて、好奇心の交流の場をつくりました。

世界遺産「北の縄文」の文化に ふれる機会に

2021年、北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録され、「北の縄文」が注目を浴び始めました。2022年にオープンした「森の工舎」を舞台に、その文化にふれる場をつくってみては、という縄文文化の普及に取り組む関係者からの強い要請により、企画がスタート。世界文化遺産構成自治体や、地元自治体、教育委員会、文化財団など多くの連携によって実現した体験型の展示とイベントを開催しました。

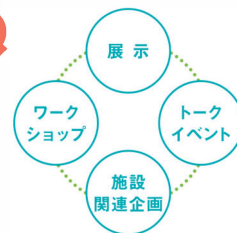


コンセプト

?と!とQで北の縄文とつながろう!

親しみやすく「縄文」の入り口へといざなう展示内容から、?(ふしぎ)!(発見)Q(問い)のキーワードで、子ども大人も感じたことを表現しあう。そんなつながりを目指した空間をつくりました。体験ワークショップ、トークショー、施設内の関連企画など、地域と人のつながりの中で、縄文を楽しんでいただく企画を盛り込みました。対話や探究心を生む仕掛けや、子どもたちの「問いを持つ力」からコミュニケーションも生み出しました。

? ! Q



体感・興味

興味のおもむくままに
縄文文化や人やすらにふれる

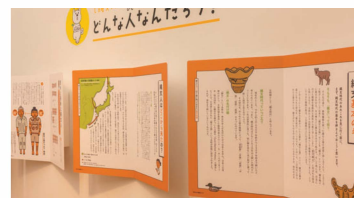
好奇心

たくさんの! ? Q が
あふれだす場に

対話・探究

感じたことを書いたり
話したりしてみよう

こたえを探したり知識からではなく、縄文の入り口とつながる工夫。 好奇心と探究心が動きだす親しみやすい空間をつくる



重厚な歴史文化展示で発生しがちな「触れず嫌い」「をなくすため、イラストを多用し、明るい色彩豊かな空間構成と体験展示に。



好奇心いっぱい
の相棒犬「ジョー」
縄文時代も人間のパート
ナーだった犬。のキャ
ラクター「ジョー」が、
縄文展の相棒犬に。



興味をひきつける
遺跡の存在
北海道唯一の国宝土偶「中空土偶」
や、近隣から出土された土器や装
飾品などを展示。本物に触れる機
会から縄文を知るきっかけに。

はじめての縄文を ナビゲートする

縄文を知らない人にもわかりやすくシンプルに解説してくれる本を特大3Dパネルとして展示しました。「知られる縄文ライフ」
誠文堂新光社刊(豊田亜紀子・著/武藤康弘・監修/スソアキコ・イラスト)



つながる
WORK BOOK
「縄文と今をつなぐ問い
から、みんなで考えよ
う。」縄文を深めていく
ワークブック。

